

日本アロマコーディネーター協会は 今年設立より20周年を迎えます

～みなさんとともに歩んだJAAストーリー～

前編 アロマコーディネーター誕生の物語

JAA日本アロマコーディネーター協会は、今年設立より20周年を迎えます。

20年前、アロマセラピーという言葉もよく知られてはおらず、まだ一部の女性のための高価な化粧品やエステティックと同じようなものと考えられていた時代、JAAは日本初の本格的なアロマセラピーの資格認定団体として生まれ、どんな方でもアロマセラピーを正しく知ることができるように教育カリキュラムを確立し、第一線で活躍する多くの先生方の指導のもと、これまでに3万人を超える資格認定者を育成してまいりました。

JAAの趣旨・理念とは教育を通じたアロマセラピーの普及であり、すべての方がアロマセラピーを安全に使えるように正しく学習し、そしてそれを周りの方々へと伝えていけるよう、教育環境の普及・整備と指導者の育成を主眼として活動を続けています。

JAAの資格認定は、協会指定のカリキュラムを修了し認定試験に合格することが条件です。これは今も変わらず、私たちの考えるアロマセラピーの普及・啓蒙の根幹として持ち続けています。

そしてこの20年間は、ご指導に尽力いただいた諸先生方と、JAAで学び、アロマセラピーの普及のため共に活動を続け、協会を支えてくださっている多くの加盟校、会員の皆さまとともに創り上げてきたJAAの歴史でもあります。

このたび、20周年の節目としてアロマコーディネーターの誕生から現在、そしてこれからの時代に向けたJAAの目標をお届けしたいと思います。

協会設立の背景

日本アロマコーディネーター協会の前身は、東京都渋谷区でフラワーアレンジメントやインテリア・コーディネーターなどの講座を開講していたノブリス・アート・フォーラムです。

当時、文化・教養をテーマに、特に女性を対象とした講座を多数開講しつつ、これからの社会に必要となる新しい講座や教育内容を模索していました。

ここから、アロマコーディネーター誕生の物語が始まったのです。

高橋佳璃奈先生、榎林佳津美先生との劇的な出会い

ノブリス・アート・フォーラム運営の中心人物であった坂入氏（後に初代JAA理事長）が、あるときアーユルヴェーダというインド伝承医学の施術を受けました、日本にほとんどなじみの無いその施術内容は、驚きであるとともに感動的な体験だったそうです。

早速その施術を行った高橋佳璃奈先生と、アーユルヴェーダの普及に向けお話を進めていた丁度そのとき、私たちの元に1本の電話が入りました。内容は、日本で初めての本格的なアロマセラピー講座を展開したいとのご提案。そのお電話の主が榎林佳津美先生です。

高橋先生はアロマとアーユルヴェーダの融合をテーマに、榎林先生はアロマセラピーの魅力を、すでに体系化されていました。



高橋佳璃奈先生



榎林佳津美先生

今から20年前、まだまだごく一部の方にしか認知されていなかったアロマセラピー。当時、アロマセラピーという言葉は伝わり始めていても、正確な知識や安全な使い方についてはほとんど知られていませんでした。お二人からお話を聞くにつれ、これは間違いなく教育啓蒙が必要な分野だと思い、どなたでも学習していただけるカリキュラム作成のために協議を重ねました。

高橋先生、榎林先生のお二人を主任講師に向かえ、アロマセラピーとアーユルヴェーダを二本の柱として新しい流れを創り出すことに専念しました。

そして1995年4月、第1回目のアロマコーディネーター講座が開講したのです。

日本アロマコーディネーター協会設立・幡井勉会長の就任

アロマセラピーの普及・啓蒙のためには、ノビリス・アート・フォーラムでの講座開講だけでは不十分と思ひ、新たに資格認定団体を設立することが決まりました。

高橋先生の恩師であり、先生が所属されていた東洋医学伝承研究所の所長の幡井勉先生をご紹介されたのがこのときです。アーユルヴェーダ、アロマセラピー共に医療分野との融合の可能性を感じていた私たちにとって、日本におけるアーユルヴェーダの権威であり、研究者として現役のドクターとして、そしてなにより幡井先生のその穏和で誠実なお人柄に惹かれ、初代JAA会長にご就任いただきました。

1995年11月1日 日本アロマコーディネーター協会の設立です。

※幡井勉先生は2010年2月に逝去されました。



故・幡井 勉先生

浅井隆彦先生との出会い

JAA設立後、植林先生のご紹介で浅井先生とのご縁が始まりました。製薬会社に勤務され、マッサージ師の道を歩み、東洋医学・西洋医学ともに精通した浅井先生は、このときすでにアロマ業界でも知己が広く、アロマ全般への造詣も深く、協会にとって大変頼もしい存在でした。特に加盟校の普及にご尽力をいただきました。

その後、アロマコーディネーターの理論体系に加え、タッチングケアの啓蒙として、アロマハンドリラックス（AHR）、さらにアロマならではのフェイシャルというアロマフェイシャルリラックス（AFR）の制度構築をしていただきました。

現在に至るまで、あらゆる分野の講師を紹介していただき、制度構築やJAAのご意見番となっていただいています。



浅井隆彦先生

浅井先生からのご紹介やJAA会員から講師になる方など多くの先生方とご縁を結ぶことができました。

アロマハンドリラックス（AHR）の岩波先生、池田先生、アロマフェイシャルリラックス（AFR）の安水先生、根岸先生、岸先生。またご自身で活動を続ける中、JAAとのご縁を結んでくださったチャイルドケアの松本先生ご夫妻、いやしのカウンセラーの中島先生、ベットアロマの須藤先生、セラピストマナーの酒居先生方などなど。皆さんその分野の専門性のみならず、会員様に対しては人情味溢れた接し方をしている、素晴らしい講師陣です。

なぜアロマコーディネーターなのか

設立当時、アロマを使う方の名称は当然ながら「アロマセラピスト」が一般的でした。しかし「アロマセラピスト」という言い方には医療のイメージが先行し、広がりなさを感じてしまう気がしました。

もちろんアロマセラピーはカウンセリングや医療分野で素晴らしい役割を果たしますが、もっと身近な存在、そしてもっと様々な場所で使え、多くの方に夢や希望を生むもの、そんなアロマセラピーをイメージさせる名称にしたい。美容・理容、スポーツ、介護・福祉、空間演出などあらゆる分野に、また小さなお子さんからお年よりまで、人生のあらゆるライフサイクルにおいて活かされるものであることを伝えたい。そんな思いを具現化するため、いろいろと候補を挙げ、ついに「アロマコーディネーター」という名称を創り上げました。

私たちはこの「アロマコーディネーター」の名称に、誇りと自信を持っています。それは、アロマセラピーという一部の方にのみ知られていたものが、この「アロマコーディネーター」の名称とともにさまざまなステージへと広がり、アロマの新たな可能性を会員の皆さんご自身が日々創り出してくださっているからです。



JAA会報誌創刊号

通信講座と加盟校制度

協会設立後、アロマセラピーは次第に脚光を浴び、多くの方から学びたいとお声をいただきました。ですが、東京での通学講座だけではとても対応できません。この素晴らしいアイテムを日本全国の方に知っていただきたい、そんな思いから通信講座の立ち上げを決めました。

現JAA直轄校である、日本アロマコーディネータースクールの誕生です。

当初、通信講座では途中で学習に挫折してしまう方がいるのではないかと不安でしたが、受講料をいただく以上、最後まで指導する、受験合格まで学習できる、という特別なスタイルで対応し、おかげさまで「アロマコーディネーター通信講座」は日本全国に爆発的に広がりました。

この通信講座の一期生の方々が、今でも日本のアロマセラピー業界の先頭を走り続けているのです。

そして、学んだ方がそれを次世代へとつなげるため、1996年から加盟校制度を導入しました。JAA会員の皆さんには、指導者になることを希望される方が多いです。それはJAAで学んだアロマを愛し、誰かに伝えたいと思う方が多いからだと思ひます。

教えることは反面教師。教えることで学び、自身をより大きく成長させます。そんな加盟校主宰者の方々が、今のJAAを支える中心となっています。

法人加盟校次世代のアロマコーディネーターを育てる

設立から5年後の2000年、資格者と共に加盟校も増え、日本全国にアロマコーディネーターを育てる環境が着々と根付きつつありました。

そんな時、福岡の専門学校様から、学生にアロマの学習をさせたいとのご希望が寄せられました。当時JAAは社会人対応講座のみでしたが、若い世代の学生にこそアロマを学んでほしい、これは今後のアロマセラピーの方向性をがらりと変えていくチャンスと考えました。学生たちの就職に有利になるという確信はもちろん、アロマを学ぶことで、家族、友人などに対してメンタルも含めたケアをしてもらえると思ったからです。

アロマは、優しさを伝え、感じるすることができます。初めて社会に出る若者たちにとって、知識よりもメンタリティを高める大切さを知ってほしいと思い、専門学校様への協力が始まりました。

現在では、福祉系に限らず、美容、鍼灸、柔整、薬学、ペット系、スポーツ系の各種専門学校や大学でも導入され、毎年1,000名以上の学生が学習しています。

上記の専門学校の第1期の男子学生が、当初アロマの香りを「臭い」と言っていました。卒業時に「老人介護施設への就職が決まったから、ぜひアロマを実践します。」と言ってくれたことは、忘れられない言葉です。



JAA設立後、国内では私たちが追う形でアロマセラピーの団体が次々と生まれました。

アロマが少しずつ社会に浸透し、アロマを学ぶ方、使う方も増え、精油の流通量も年々増加の一步をたどりました。

日本でのアロマセラピーの発展に貢献できたこと、そしてJAA会員、アロマコーディネーターの方々が日々活動することで日本のアロマセラピーが広がり活性化してきたことは、とても光栄に思います。

この20年間で、私たちは様々なことを経験し、模索し、アロマセラピーの普及に努めました。次回の「Column/香羅夢」では、この物語の後編として、私たちの思い出に残る出来事、そしてこれから目指す道についてお話ししたいと思います。

—後編に続く—

JAA認定・検定制度 導入年表

年	導入制度
1996年	アロマコーディネーター認定制度
1999年	アロマハンドリラックス認定制度
2000年	インストラクター認定制度
2004年	チャイルドケア・コーディネーター認定制度 アロマフェイシャルリラックス認定制度
2006年	アーユルヴェーディック・アロマセラピー検定制度
2007年	チャイルドケア・インストラクター認定制度 カウンセリング検定制度
2008年	いやしのカウンセラー認定制度
2010年	セラピストマナー検定制度
2011年	ペットアロマケア検定制度
2012年	介護アロマコーディネーター認定制度
2014年	スキンケア検定制度 ジャパニーズアロマ検定制度 膝ケアコーディネーター認定制度